

矢田野エジリ古墳の埴輪群像



発掘された矢田野エジリ古墳(昭和63年撮影、小松市埋蔵文化財センター提供)



人を乗せた飾り馬と馬飼(小松市埋蔵文化財センター所蔵) 人物2体と馬1体でセットとなる埴輪で多くの馬具を着けた飾り馬が主役である。

昭和六十三年(一九八八)、矢田野エジリ古墳の発掘調査が行われ、多くの埴輪が発見された。六世紀前半に築造されたこの古墳は、全長三〇メートルの前方

後円墳であるが、墳丘が失われているためその存在は知られていなかった。埴輪は周溝内で破片となつて発見されたが、接合・復元作業によつて、

はにわ



さまざまな人物埴輪(小松市埋蔵文化財センター所蔵) 男性と女性、立像と坐像の違いがあり、男性は天冠か帽子の被り物で、女性は髻を結っている。

人物埴輪一二体、動物埴輪二体、円筒埴輪約五〇点が姿を現した。このうち人を乗せた飾り馬と馬飼がセツトになった埴輪は全国初の発見で、これを含めた三〇点の埴輪が平成九年(一九九七)に国の重要文化財に指定された。人物埴輪のうち種類がわかるのは、巫女と馬飼である。巫女は「古墳島田」と呼ばれる折り返

した髪型で、祭服をまとっている。馬飼は、右手を挙げて手綱を持つ姿をしており、馬と一体になる埴輪である。

このほかの人物埴輪は、左手を挙げた女性、三角帽の男性、天冠の男性、ひざまずく男性で、手を挙げた女性やひざまずく男性は儀礼的な姿に見える。

これらの埴輪は、行列や群像として墳丘に立てられたもので、古墳に葬られた首長が生前に行った「まつり(祭儀)」のようすを表したものであろう。それは、首長権の継承儀式のような、首長が生前に行った最も重要な「まつり」と考えられる。

手を前に出す巫女は、首長に祭具を捧げる姿であろう。左手を挙げた女性は、巫女の背後に仕え、手には祭具を持っていたと推定される。ひざまずく男性は首長の側近と見られる。そして、飾り馬はこれら人物群の背後に置かれて、首長の権威や財力を誇示したものであろう。(三浦純夫)